

佳作

10年後の自分へ

青森県蓬田村立蓬田中学校

3年 坂本 真凜

15歳の私は今、家族との関係に悩んでいます。本当はもっと甘えたいし、もっと話したい。親と仲良さそうに話している友達がうらやましい。素直になりたい。そう思っています。10年後にはこんな悩みはちっぽけなものに思っているのかもしれませんが、一人暮らしが怖くて親にすがりついているのかもしれないね。

夏休みもあと少し、私は宿題に追われ、藁にもすがる思いで頑張っています。今日の夜ご飯は私が好きな焼き鳥でしたが、余裕がなくて食べられませんでした。そんなときに「明日食べるかもしれないから、残しておくべ。」という会話が耳に入ってきました。今すぐにでも両親の元へ行き、ありがとうと言いたかったけれど恥ずかしくて行けませんでした。この話を聞いて未来の私はどう思いましたか。このくらいすぐ言えばいいのにと思っていると思います。今の私も同意見です。でも思春期って難しいもので、なかなか素直になれません。

10年後の私はもう覚えていないかもしれませんが、母は七夕で短冊に「子どもたちともっと遊べますように」と書いていました。とても嬉しくてこっそりしまっておいています。このことも覚えているかな。大事な試合の前日に母と大喧嘩しました。次の日、目が覚めると茶色の机の上に一つのメモ。「あなたならできる」そう書いてありました。思わず頬が緩んでしまいました。結果その日の試合は大成功。でも、恥ずかしくて謝れませんでした。

母の日、父の日、敬老の日。数少ない私が素直になれる日です。顔も耳も真っ赤にしながらプレゼントを渡すと、とても喜んでくれます。やっぱり恥ずかしくて顔を見ることはできないけれど、嬉しそうな声を聴けて満足しています。今は年に3回しか喜ばせてあげられませんが、いつかは365日喜ばせてあげられるようにしたいです。

ただ、私はとても気分屋です。明日には反抗期モードに入っているかもしれません。この文を読んでいるときは穏やかな気持ちだといいです。私は反抗期モードのときは、家族を傷つけてしまう日があります。多分、高校生になったらそういう日はさらに増えると思います。10年後には反抗期は終わっていると思うので、今までの謝罪をし、感謝を伝えておいてください。

ここには書ききれないくらい、家族は尽くしてくれました。感謝してもしきれないほどに。この家で15年過ごしていて、一人ではできなかった出来事は山

ほどあります。きつとこれからもたくさんあると思います。そんなときは、素直に頼ったら力になってくれると思います。祖父母は東京に行きたいと言っていましたね。その夢はかなえてあげられましたか。父母は自分たちの願いはあまり言わないけれど、しっかり喜ばせられましたか。20年後、30年後、どんなときでも家族を信じて後悔しないよう、頑張ってください。